

## 式辞

暖かい春の風が吹抜け、周囲の木々が力強く芽吹き始めるこの良き日に、日小田後援会長様をはじめ、高等学校の校長先生など、多数の御来賓の方々に御臨席をたまわりますとともに、保護者の皆さまに御出席いただき、平成三十一年度のIVY合同入学式が、盛大に挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可した百四十一名の皆さん、入学おめでとうございます。IVYの教職員一同、心より皆さんを歓迎します。

本校は、大分県のコンピュータ専門学校の先駆けとして、昭和五十九年四月に開校し、IVY総合技術工学院の名前で、三十年の伝統を持つ学校として発展してきました。

先般、新しい元号が発表され、「平成」から「令和」へと元号が変わります。私達も、このIVYをもっと充実させ、地域に愛される学校として成長させるため、本年度大きな改革に取り組みました。具体的には医療系学科を分離独立させ「IVY大分医療総合専門学校」と言う、新しい学校を設立しました。同時に情報系学科も学習内容を適切に表した校名でありたいと「IVY大分高度コンピュータ専門学校」に校名を変更し、スタートすることにしました。

これにより、各学校の特色が明確になり、どんな技術・資格が取得でき、就職先がどんな業種なのか判りやすくなりました。同時に就職先の企業にもアピールがしやすくなります。新入生にとって少しでもプラスになるよう、今後も積極的に取り組みたいと考えています。ただし、IVYと言う呼び名は変わりません。現在もIVYのモットーである「就職のIVY」・「資格のIVY」・「人間力のIVY」を身に付けた、多くの先輩方が母校の発展を願い、自信と誇りを築くため、様々な分野でエキスパートとして活躍しています。そんな先輩の思いを、皆さんは大切に引き継ぎ、社会で活躍し、必要とされる人物になることを、目指して欲しいと思います。

さて皆さんは、これからIVYと言う学校で、専門的知識と技術を学びます。その時に大切にして欲しい心構えを二つ伝えます。

一つは、今の皆さんは海に浮かぶヨットです。そう。帆を上げ、風を受け、進む、あのヨットです。ヨットは帆を下ろしたままでは、風が吹いても進むことが出来ません。大きくいっばい帆を広げて、風を沢山受けとめた時、力強く進むことが出来ます。ヨットである皆さんが勉強しようとする時、これから私は、先生の教えをしっかり受け止めますよ。だから、目を開き、耳を澄まし、手と頭をフルに働かせています

よ。と受け止める気持ちを持っていないと、せつかく先生が大切な事を教えていても、頭に残りません。私も教室で授業をしている時、あるいはこうして話をしている時、大きな帆を上げて聴いてる学生は、姿勢と目を見ているだけで、いま本当に伸びているなと感じます。ぜひ皆さんも、大きな風も小さな風も受けとめられるように帆を広げて、勉強に励んで欲しいと思います。

そしてもう一つの心構え。I V Yに入学した学生は「チームI V Y」の一員です。チームと似た言葉にグループや集団があります。共に複数の人達が集まった状態のことですが、チームとの違いは何だと思えますか。グループや集団は単なる気の合うもの同士の集まりであり、時には楽しみを共有したりしますが、気の合わない場面では簡単に衝突したりもします。

ではチームはどうでしょう。チームにはみんな目指す目標があります。だから、目標達成に向けて、チームのために助け合い、時には我慢をして協力し合います。相手を思いやり、力を合わせて頑張る。そんなチームには、固い絆で繋がった真の仲間が生まれます。仲間と挑戦するから大きな力が出せると思います。皆さんは「チームI V Y」の一員として、仲間と協力し、助け合いながら一緒に勉強に取り組んで下さい。

終わりになりましたが、保護者の皆様、本日は誠にめでとうございます。

高校を卒業し社会人となる間の、大切な時を、IVYの学生としてお預かりすることとなりました。本校では、社会人としての技術・知識・マナーを身に付けさせ、送り出せるよう指導して参ります。ご家庭でも社会の厳しさを伝えていただきたいし、時には突き放し、自立を促すことも必要だと思います。お子様が立派な社会人となることが、保護者の皆様と学校の共通の目的と考え、取組んで参ります。皆様の一層のご理解とご協力を、お願い申し上げます。さて新入生諸君！。皆さんが本校で勉強に励み、友情を深め、それぞれの目標に果敢に挑戦することを期待して、IVY合同入学式の代表校長の式辞といたします。

平成三十一年四月十五日

IVY大分高度コンピュータ専門学校

校長 上村 俊一